

★慶應義塾大学☆学部別総評★

学部別傾向

学部別に出題傾向が大きく異なるので、それぞれにおいて十分な対策（商と経済は過去6ヶ年分チェック）が必要です。近年、毎年、出題形式やそのLevelが変化しているので、あまり古い問題形式は参考にはならないので注意しましょう。出題形式の面では記述と論述と選択の融合だが、近年正誤問題が増加の傾向にあります。ハイレベルではないが、練習しておかないと一問一答では対抗できなくなってきています。出題内容の面では、それぞれの学部の特徴が出ているので、どうしても慶應と考えている受験生は全ての学部の対策に苦勞します。配点も学部によって異なるので、世界史の重要度も変わることは注目すべきでしょう。

年度別傾向

早稲田・明中法のように、10個以上のテーマ・分野が流行するほどではないが、同じ単元・用語を狙ってくる（選択肢・論述内容・本文にも隠れている）ので、複数受験するか、他学部の入試問題を手に入れるか、重視したいところです。全体的に出題されやすいテーマや分野・地域などあるので、他学部の過去問もチョイスして演習するのもよしでしょう。近年、受験生集め目的の傾向からか、早稲田に類似した同年類似出題を増やしています。必ず他学部の入試問題入手が不可欠です。

その他

全体的に易化傾向にあるが、いまだ受験レベルを逸脱したマニアックな用語は毎年5~15%ほど（特に法学部は多い）はあります。どうしても世界史で8割以上の高得点を狙わねばいけない受験生は、用語集の頻度数3以下まで全てをチェックするなど、最高水準レベルの学習は必要となるでしょう。

又早・上智で過去に出題されたハイレベル用語をよく見かけます。この2大学の過去問も触れる必要があります。形式的には、テーマ史による出題がほとんどですが、標準レベルの通史に穴を作らないように学習したいです。

“通史なくしてテーマ史取得なし”を肝に銘じましょう！

また、全ての学部において文化史・現代史の出題率が高くなっています。早い段階で一度は完成させておくべきでしょう。

最後に・・・

2013年から全体的な形式や難易度や傾向が大きく変わりました。レベルが大きく下がったので、2013年以前の問題は気をつけて扱って下さい。また、2015年から試験日が変更になりました。この影響で、文学部・法学部の対策がしやすくなりましたが、その分、法学部の問題のLevelが上がった気がします。一方、経済学部と商学部のテーマや単元が類似するようになっています。注意しましょう。

学部別のコメントはナショナリズムの簡易表を！

2/13 経済学部【英：小論：世界史=200：70：150】

2/14 商学部【英：論述テスト：世界史=200：100：100】

2/15 文学部【英：小論：世界史=150：100：100】

2/16 法学部【英：論述力：世界史=200：100：100】